

## 教材・支援機器活用実践事例 【ボディイメージを育てる英語指導】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	選択外国語（英語）
	単元・題材名	身体の部位を知ろう
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボディイメージを明確にし、身体の部位に注目させる。</li> <li>簡単な英語を聞き、理解し、自分で選択する力を付けさせる。</li> </ul>
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体の部位名が分かり、英語で言うことができる。</li> <li>英語で言った顔のパーツを選ぶことができる。</li> <li>英語で言った色や大きさを聞き分けることができる。</li> </ul>
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校・高等部・1～3年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	選択授業（集団）
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>机上での学習だけでは、集中力が続かない生徒もいる。</li> <li>英語に関心はあるが、英語を話すことに照れがあったり、間違いを気にして声が小さくなったりすることがある。</li> <li>好きな物や楽しいことに対しては、積極的である。</li> </ul>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; vertical-align: middle;">             身体図と髪・顔の色別パーツ           </div>
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒がモデルとなった等身大のイラストを使って学習することで、生徒が身体の部位に対して、より興味を持ちやすくする。</li> <li>今までに学習した、色や形、大きさの言い方なども一緒に学習することができる。</li> </ul>
授業における支援・教材の配慮		<ul style="list-style-type: none"> <li>等身大のイラストを制作する段階から、身体の部位名や色を英語で、繰り返し伝えたり指示したりすることで、目と耳で確認しながら単語が理解できるようにする。</li> <li>イラストを使って学習するだけでなく、自分の身体も実際に見たり触ったりしながら、部位名を確認する。</li> </ul>
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちで、形取ったり色を塗ったりしたことで、机上の学習より集中して作業を行うことができた。また、色や部位名を生徒同士で、英語を使いながら、作業を進める様子も見られた。</li> <li>復習の際、部位名を忘れたとしても、等身大のイラストを見たり、自分や友達の部位に目を向けたりすることで、他の単元に比べて、自分(たち)で思い出して答えられることが多かった。</li> </ul>